【授業科目】母子支援看護学特論Ⅲ（リプロダクティブヘルス）（母性科目）Advanced Child and Mother Health Nursing Ⅲ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
日比 千恵	１年次 前　期	選　択	２	３０	講　義	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	女性の健康概念をリプロダクティブヘルスの視点から捉え、ウィメンズヘルスの基本的考え方や知識を学び、広くウィメンズヘルスの向上に寄与する看護援助方法を探求する。 ライフステージ各期にある女性とその家族の特性と健康問題について概観し、理解を深めるとともに支援に必要な基礎的能力を養う。 思春期から更年期に至る女性のリプロダクティブヘルスに関わる健康問題を縦断的に概観し、性機能の発達から成熟・衰退にいたるまでの特徴およびその関連因子、母性の発達に寄与する看護援助方法について理解を深める。 周産期にある女性とその家族の持つ主要な健康問題や親性の発達、次世代の健康への影響を取り上げ、有効な看護実践のための推論能力を高める方法論を探求する。また、EBMに基づくケア提供の基本について理解を深める。 授業は実務家教員（日比）が進める。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／学修の進行を確認し、学生の理解を深めるため、適宜助言を行う。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー③、④の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	1. 女性とその家族の性と生殖に関する健康支援に向けて、基盤となる諸理論や概念を理解する。 2. リプロダクティブヘルスケアについて、対象となる事象を理解し、基本的な看護援方法を探求する。 3. 妊孕性に関する問題や自己決定を支援するケアについて理解できる 4. 次世代以降の健康を視野に入れた母子看護の意義と役割が理解できる。 5. 親性の発達支援、子育てをめぐる諸課題についてその実態と背景を理解し、有効な看護実践について他職種との連携、関連する施策の活用を考えることができる。
時間外学習に必要な内容・時間	テーマに関する資料の購読、研究論文の検索、文献検討を行い、プレゼンテーションの資料を作成する。 授業の振り返り、次回授業の準備に各回４時間の学習を要する。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回　リプロダクティブヘルスの概念と女性の健康に影響を及ぼす環境要因と社会・文化的動向 第２回　ウィメンズヘルスとメンズヘルス　性差医療の意義 第3～6回　ライフステージ各期の女性のリプロダクティブヘルスに関するアセスメント 1）思春期のリプロダクティブヘルスと関連要因 2）成熟期のリプロダクティブヘルスと関連要因 3）更年期・老年期のリプロダクティブヘルスと関連要因 第７回　女性と栄養　適正な栄養ケア・マネジメントと次世代への影響 第８回　性感染症とケア 第９回　不妊女性の健康と自己決定を促す援助　生殖補助医療と倫理的問題 第10回　遺伝をめぐる諸問題 第11回　分娩期にある家族の健康支援 第12回　周産期ガイドラインとリスクマネジメント 第13回　働く女性への健康問題と支援　育児とライフワークバランス 第14回　親性の発達支援　子育て支援 第15回　他職種・他機関との連携による母子支援　関連法規や行政施策の活用
評価方法 評価基準	授業参加態度 25%、プレゼンテーション 25%、レポート 50%などを合わせて総合的に評価する。
教科書	なし　　参考書等　講義の中で適宜紹介する